

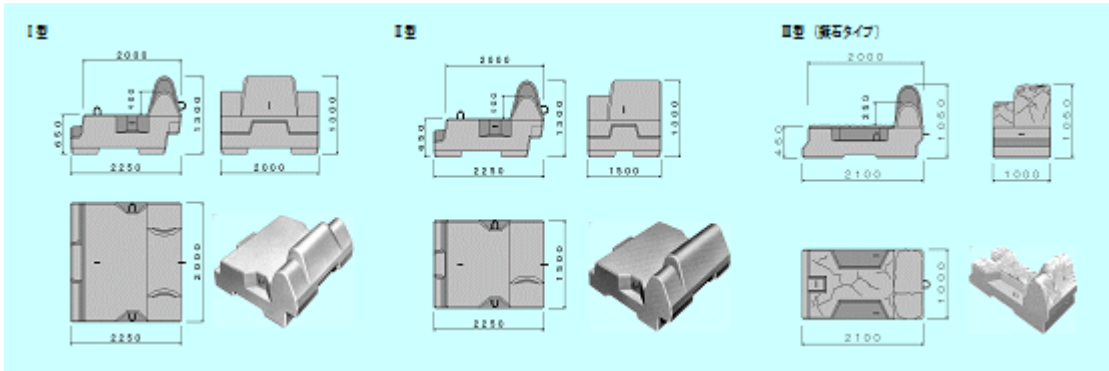
往還

魚道機能を備えた護床ブロック
往還は、平成3年より実施されている「魚ののぼりやすい川づくり推進モデル事業」を背景に（財）リバーフロント整備センター内に設置されている〔魚道ブロック研究会〕として共同研究・開発されたもので、魚道機能と護床ブロックとしての機能をあわせ持った製品です。



《特長》

- 形状はアイスハーバー型（部分越流型）を基本としています。アイスハーバーの特長は、非越流壁と越流壁の2つの高さの異なる隔壁を有することです。非越流壁背面に魚がいつでも休息できる空間（静穏域）を提供します。
- 越流部・非越流部を流線形としました。魚の遡上を円滑にするために、越流部を流線形とし、越流部背面での流れの剥離現象防止しました。
- 護床（根固）ブロックの機能を有しています。
- ブロックは相互に連結でき、安定に優れています。
- 施工は容易です。
- 景観を考慮した擬岩石模様の魚道ブロック（往還Ⅲ型）もあります。



往還（おうかん）							
種別	参考質量	体積	型枠有効面積	寸法			100㎡当り使用個数
	ton	m ³	m ²	長さ L	幅 B	高さ H	個
				m			
I	6.328	2.751	12.06	2.25	2.00	1.30	25.0
II	4.793	2.084	9.59		1.50		33.3
III	2.140	0.930	7.29	2.10	1.00	1.05	50.0

魚はどうして川を上るの？

アユ（遊泳魚）	ヨシノボリ（底生魚）	モクズガニ（甲殻類）

北海道西部以南に分布。秋に川で産卵、孵化後稚魚は海に下り春に再び遡上します。	日本全国に分布。春～夏にかけて産卵し、孵化後稚魚は海に下り、夏～秋にかけて遡上します。	日本全国に分布。秋に産卵のため海に下り、約半年後に再び遡上します。
--	---	-----------------------------------

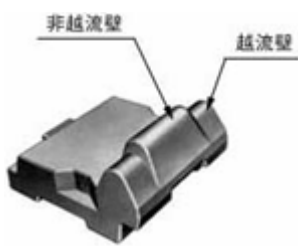
「往還は魚の生活道路」

河川に生息する魚は、餌をとったり産卵をしたりするため淵や瀬など川のいろいろな場所を生息域にしています。川を上ったり、下ったり本流と支流の間を自由に動き回っています。そこに堰のような行き来を遮る施設があると魚は移動できなくなり、やがては餌場や産卵場を失い絶滅の危機に瀕します。魚道とは、こうした魚が行き来できない場所に設けた魚の通り道のことをいいます。



アイスハーバー型魚道

「魚が堰を上れます」



往還Ⅰ型

魚道ブロック往還は、(財)リバーフロント整備センター内に設置されている「魚道ブロック研究会」において当社と共同研究・開発された製品で、護床ブロックに魚道機能を持たそうと言うアイデアから生まれました。
往還は、近代的魚道といわれるアイスハーバー魚道に属し、越流壁と非越流壁という2つの高さが異なる隔壁を有しています。魚は休息できる空間(静穏域)で休みながら堰を上っていくことができます。
魚に優しい生態系保全型ブロック工法です。